



基本理念3

“活力を創造する”葉山

基本目標 7

だれもが住みやすく、暮らしやすい環境が整っているまち

施策分野⑬ 土地利用

[将来像] 自然に囲まれた居住環境と緑が大切にされている葉山のイメージが保たれている

基本施策23 地域特性を生かしたまちづくりの推進

基本施策がめざす姿

- 地域の特性や地域住民のニーズに応じたまちづくりが推進されています。

まちづくり指標

指標名	現状値	めざそう値	備考
	平成25年度	平成32年度	
地域まちづくり推進協議会* ²⁵ の認定数	2団体	5団体	
地域における土地利用規制の満足度	—	50%超	町民アンケート

現状と課題

- 平成9年に策定した「葉山町都市計画マスタープラン」の期間満了に伴い、同計画を改定し、平成28年以降においても都市の健全な発展と秩序ある整備を図るために必要な都市計画を推進していく必要があります。
- 葉山町では、平成15年4月に協働によるまちづくりの推進、開発事業の手続き、紛争の調整を柱とする「葉山町まちづくり条例」を施行し、10年以上が経過しました。条例運用を行う関係各課と連携し、これまでの成果と課題をふまえ総括を行うとともに、見直しに向け研究を進めることが求められます。
- 平成22年に景観法に基づく「葉山町景観計画」を策定し、青い海や緑豊かな丘陵など四季折々に美しい変化をみせる自然景観、文化的な魅力を象徴する住宅景観や交流景観の保全に努めています。今後も、引き続き町民の協力を得ながら、葉山らしい景観の維持・保全に努める必要があります。
- 高齢化や障害者の社会参加などが進む中で、だれもが暮らしやすい、外出しやすいユニバーサルデザイン*²⁶のまちづくりを進める必要があります。

基本方針

- 町民と協働で、都市計画や景観形成の新しいルール・計画づくりを進め、その計画に沿いながら、地域住民のニーズに応じた取り組みを推進します。

具体的な取り組み

単位施策	23 - 01	地域特性に沿った土地利用の誘導
------	---------	-----------------

葉山町の新しい土地利用、都市基盤整備の指針として、都市計画マスタープランを改定し、その方針に沿って、町民との協働により地域まちづくりの取り組みを推進していきます。

葉山町まちづくり条例の総括と関係各課を交えた条例運用の見直しに向けた研究を進めます。

また、開発等が影響を与える周辺環境への配慮についての研究を進めます。

単位施策	23 - 02	良好な景観の形成
------	---------	----------

葉山町の美しい景観を維持・保全していくため、町民への啓発活動や、景観形成活動への支援、景観に関する規制誘導の推進に努めるとともに、国や県の動向も注視しながら、電柱の削減や屋外広告物の適正な規制誘導など、時代に即した良好な景観を整備、創出するための取り組みを検討します。

単位施策	23 - 03	ユニバーサルデザインのまちづくりの推進
------	---------	---------------------

道路や公共施設などの公共空間のユニバーサルデザイン化を推進するとともに、民間施設についても誘導していきます。

協働でできること

- 町は、都市計画、土地利用規制、景観形成に関する取り組みなど地域レベルのまちづくりへの町民の主体的な参画・協力を促します。
- 町は、地域まちづくりを推進するため、町内(自治)会等と協働で地域まちづくり推進協議会の設立に向けて取り組むとともに、推進協議会の活動を支援します。

* 25 地域まちづくり推進協議会とは、一定の要件を満たした上で、町の認定を受けて設立される団体のこと。地域のまちづくりのルール策定に向けて、地域のまとめ役や町と地域の窓口の役割を担う。

* 26 ユニバーサルデザインとは、あらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方のこと。

基本目標 7

だれもが住みやすく、暮らしやすい環境が整っているまち

施策分野⑭ 居住環境

[将来像] やすらぎとうるおいを感じることができる空間がある

基本施策24 魅力ある公園の創出

基本施策がめざす姿

- 地域住民のニーズにあった公園の利用方法や維持管理が行われ、多くの人から高い満足感が得られています。

まちづくり指標

指標名	現状値	めざそう値	備考
	平成25年度	平成32年度	
地域の身近な公園に対する満足度	—	50%超	町民アンケート

現状と課題

- 町内には都市公園が7か所、児童遊園などの身近な公園が62か所あり、一人あたりの公園整備量は県内で群を抜いて高い水準になっていますが、その規模や配置については、地域によって偏りがあります。
- 公園は、憩いの場としてだけでなく、町民の様々な活動の場や災害時の一時的な避難場所をはじめ、様々な機能を有しています。また、未就学期、学齢期、成人、高齢者といったライフステージに応じて公園に対するニーズは異なることから、そうしたニーズに合った機能充実と維持管理に努めていくことが求められています。

基本方針

- 公園の整備・維持管理を計画的に進めるとともに、自然や緑を身近に感じることができる生活空間の創出に向けた取り組みを住民との協働により推進していきます。

具体的な取り組み

単位施策

24 - 01

地域のニーズに即した公園の創出

町内の公園について、多様な年代層の地域住民が理想とするあり方を把握し、遊具の更新や修景などにより魅力ある公園を創出します。

また、町で管理する公園の適切な維持管理に努めるとともに、合意形成が図られた地区では、地域住民との意見交換などを通じて、協働による維持管理のルールづくりを進めます。

協働でできること

- 町は、町民が地域の身近な公園のあり方を話し合う場に積極的に参画するよう促します。
- 町は、身近な公園を地域コミュニティの基盤として位置づけ、アダプトプログラム^{*27}などの手法を活用することなどにより、町民とともに主体的な利用や維持管理に取り組みます。



* 27 アダプトプログラムとは、ボランティアとなる地域住民や企業が道路や公園、海岸など一定の公共の場所の定期的な清掃活動を行い、地元を大切に慈しんでいこうということから名づけられた制度のこと。

基本目標 7

だれもが住みやすく、暮らしやすい環境が整っているまち

施策分野⑭ 居住環境

【将来像】 やすらぎとうるおいを感じることができる空間がある

基本施策25 水辺環境の整備促進

基本施策がめざす姿

- 水辺環境の安全性が確保され、健全な生態系が保たれています。

まちづくり指標

指標名	現状値	めざそう値	備考
	平成25年度	平成32年度	
河川の整備に対する満足度	22.9%	30%	町民アンケート

現状と課題

- 町内を流れる主要な河川である下山川と森戸川は、それぞれ河口から2kmの区間が県が管理する二級河川で、その護岸整備は概ね完了しています。
- 一方、町が管理している水路は、法定外公共物^{*28}等として管理しています。
- 全国で近年多発する水害・土砂災害の状況を踏まえたさらなる安全性の向上や親水性の向上などに努めていく必要があります。

* 28 法定外公共物とは、道路法や河川法が適用される道路や河川などの公共物を法定公共物というのに対し、里道、水路、池沼、農業用水路などのように法律が適用されない公共物のこと。

基本方針

○ 水辺環境の治水性・親水性の向上を図っていきます。

具体的な取り組み

単位施策

25 - 01

河川の治水性・親水性の向上

河川・水路の氾濫防止対策・土砂災害防止対策を県とともに推進し、自然素材を活用した親水護岸など、親しみ、気軽に活用できる水辺空間づくりを進めます。

協働でできること

□ 町は、町民や町民活動団体との協働により、河川の清掃をはじめ、水辺環境を保全・活用する取り組みを推進します。



下山川（木古庭会館前）



下山川（上山口）

基本目標 7

だれもが住みやすく、暮らしやすい環境が整っているまち

施策分野⑮ 道路環境

〔将来像〕 安全で環境に配慮した道路環境が整っている

基本施策26 計画的な幹線道路の整備

基本施策がめざす姿

- 都市計画道路の整備が、都市計画決定に即して着実に進んでいます。

まちづくり指標

指標名	現状値	めざそう値	備考
	平成25年度	平成32年度	
都市計画道路整備率 (事業主体：葉山町)	66.8%	80%	整備済延長 /計画延長
都市計画道路の未着手区間の 延長	2,305m	1,200m	

現状と課題

- 葉山町の道路体系は、国道134号及び県道27号(横須賀葉山線)、県道207号(森戸海岸線)、県道311号(鎌倉葉山線)、県道217号(逗子葉山横須賀線)〔三浦半島中央道路〕、横浜横須賀道路、逗葉新道などを幹線道路として形成されています。
- 都市計画道路は、人口増加、交通量の増大や市街地の拡大等、都市の成長を前提として計画され、これまで着実に整備を進めてきましたが、都市計画決定されてから長い年月が経過しているにもかかわらず、未着手となっている路線・区間もあります。
- 町では平成26年3月に「都市計画道路の見直し方針」を策定したところであり、今後は、この方針に基づき、時代の変化等により整備の必要性が少なくなった未着手区間について、都市計画道路としての決定を存続・変更・廃止するなど、地域の実情にあわせた見直し・再構築を図っていく必要があります。

基本方針

- 町内の都市計画道路の整備計画を策定し、都市計画道路の整備を着実に進めていきます。

具体的な取り組み

単位施策 26 - 01 都市計画道路の計画的な整備

財政状況を考慮しながら都市計画道路の具体的な整備計画を検討・策定し、それに即して、用地取得、物件補償、測量調査、実施設計、工事施工など、都市計画道路の着実な整備を進めます。

単位施策 26 - 02 都市計画道路の見直しに伴う都市計画決定(変更)

平成26年3月に策定した「都市計画道路の見直し方針」の方針に基づき、都市計画の決定(変更)を行います。



都市計画道路（五ツ合森戸線）



都市計画道路（下山橋日陰線）

基本目標 7

だれもが住みやすく、暮らしやすい環境が整っているまち

施策分野⑮ 道路環境

[将来像] 安全で環境に配慮した道路環境が整っている

基本施策27 安全で快適な町道の確保

基本施策がめざす姿

- 町道の安全性・快適性が確保されています。

まちづくり指標

指標名	現状値	めざそう値	備考
	平成25年度	平成32年度	
道路の整備に対する満足度	22.9%	30%	町民アンケート

現状と課題

- 葉山町の町道は、平成25年度末現在で路線実延長が約153 km、舗装率は約83%となっています。
- 車両が円滑に通行できる道路環境が求められると同時に、歩行者等の安全確保を図っていくことが必要です。



基本方針

- 町道を整備するとともに、適切な維持管理に努めます。

具体的な取り組み

単位施策	27 - 01	町道の整備・維持管理
------	---------	------------

だれもが利用しやすい道路環境や車両の円滑な通行など、様々な面に配慮しながら、町道の整備・改良を進めていきます。また、快適な道路環境を維持するため、適切な維持管理に努めます。

単位施策	27 - 02	道路交通の安全確保
------	---------	-----------

歩行者等の安全な通行を確保するため、交通安全施設・設備の設置、維持管理を行います。

協働でできること

- 町は、町民や町民活動団体との協働により、道路環境向上のため、道路清掃等の取り組みを推進します。



町道（葉山御用邸脇）

基本目標 7

だれもが住みやすく、暮らしやすい環境が整っているまち

施策分野⑮ 道路環境

[将来像] 安全で環境に配慮した道路環境が整っている

基本施策28 適切な橋りょうの維持管理

基本施策がめざす姿

- 町内の橋りょうの維持管理・修繕が適切に行われています。

まちづくり指標

指標名	現状値	めざそう値	備考
	平成25年度	平成32年度	
「葉山町橋梁長寿命化修繕計画」に基づく修繕橋りょう数	—	15	

現状と課題

- 日本の道路橋の多くは、高度経済成長期を中心にして大量に建設され、建設後40～50年が経過して、劣化損傷が多発する危険性が高まっています。また、耐震性強化など、性能の向上も要求されています。
- 葉山町が管理する橋りょうは平成25年度末現在で70あり、今後、老朽化に伴う維持管理費用はますます増大することが予想されています。
- こうした中、町では、平成25年3月に、予防保全の管理に力点を置いた「葉山町橋梁長寿命化修繕計画」を策定し、補修の必要性等の調査や、必要な補修事業を進めています。今後も、既存の橋りょうの適切な管理に努めるとともに、計画的な修繕を進めていく必要があります。

基本方針

- 「葉山町橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、適切に橋りょうの維持補修を行います。

具体的な取り組み

単位施策

28 - 01

橋りょうの予防保全型管理の推進

「葉山町橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、定期点検と補修を繰り返し行い、安全性・信頼性を確保しつつ、費用の縮減と平準化を図りながら寿命を延ばしていく予防型の維持管理を行います。



主馬寮（しゅめりょう）橋（下山口地区）



上原橋（一色地区、下山口地区）

基本目標 7

だれもが住みやすく、暮らしやすい環境が整っているまち

施策分野⑩ 公共交通環境

[将来像] だれもが使いやすい公共交通環境が整っている

基本施策 29 公共交通の環境整備

基本施策がめざす姿

- 通勤や通学、また観光などで葉山に訪れる人など、だれもが利用しやすい公共交通環境が整っています。

まちづくり指標

指標名	現状値	めざそう値	備考
	平成25年度	平成32年度	
公共交通の利便性に不満をもっている町民の割合	61.4%	50.0%	町民アンケート

現状と課題

- 葉山町には、鉄道がなく、JR逗子駅・衣笠駅、京浜急行新逗子駅・汐入駅と町内を結ぶ路線バスが重要な交通手段となっています。多くの路線が1時間に2～6本程度運行しており便利ですが、道路渋滞による遅延の緩和や主要バス停の利用環境の向上が課題となっています。
- 通勤・通学・買い物などに際し、自転車を利用する町民も多い状況ですが、自転車と公共交通を組み合わせた移動についての環境整備が十分でない側面もあると考えられます。

基本方針

○ 周辺自治体、事業者との連携、協力により、公共交通の利便性の向上に努めます。

具体的な取り組み

単位施策	29 - 01	バス路線の充実
------	---------	---------

二ーズを踏まえ、バスの新たな運行路線、運行本数の増発を事業者に対して引き続き要望していきます。また、JR 逗子駅・京浜急行新逗子駅周辺のバスの円滑な運行に向け、周辺自治体、事業者と連携し、方策を研究していきます。

単位施策	29 - 02	バスの利用環境の向上
------	---------	------------

主要なバス停へのベンチ、屋根の設置等、利用環境の向上に向けた取り組みを関係機関とともに進めます。

単位施策	29 - 03	自転車の利用環境の向上
------	---------	-------------

周辺自治体との連携による充実した自転車の利用環境の向上に向けた研究を進めます。

協働でできること

□ 町と町民は、渋滞緩和や温室効果ガス排出削減にも寄与するよう、公共交通機関の利用について考えます。



基本目標 8

地域が元気や活力にあふれ、 生き生きとしているまち

施策分野⑰ 町内産業

【将来像】 地域産業が「葉山」というブランド力と結びつきながら、活発に活動している

基本施策30 農業・水産業・商業の振興と連携の促進

基本施策がめざす姿

- 各産業間のつながりが深まることで、葉山の製品の魅力の相乗効果が発揮され、生産者の所得向上につながっています。

まちづくり指標

指標名	現状値	めざそう値	備考
	平成25年度	平成32年度	
販売農家数	30戸	30戸	
肉用牛飼養頭数	299頭	300頭	
漁業組合員数	104	105	
事業所数 ^{*29}	931	950	(現状値) 24年度
売上高 ^{*30}	434.6億円	530億円	(現状値) 24年度
直売施設利用者数	23,000人	177,000人	各直売施設への聞き取りなど

現状と課題

- 農業は、葉山牛、野菜、米などを生産していますが、小規模であり、直売や加工などで付加価値をつけ、都市近郊農業としての地位を保っていますが、販路の確保等を引き続き推進する必要があります。
- 水産業は、いわし類、海藻類、貝類などを中心に漁獲していますが、資源の減少も進んでおり、稚魚や稚貝の放流を通じた作り育てる漁業の推進を図っていく必要があります。
- 小売業等の店舗は減少傾向にあるものの、葉山らしさを活かした魅力ある店舗も増えてきています。地元製品の生産から販売までの一貫した支援を行い、農業・水産業・商業が連携した「6次産業^{*31}」を創出していくことが求められます。

基本方針

- 葉山ブランドの力を活かした産品を軸に、農業・水産業・商業が連携し、持続可能な産業づくりをしていきます。

具体的な取り組み

単位施策	30 - 01	地域に根ざした農業の振興
------	---------	--------------

野菜作りの楽しさや大変さが分かる町民農園の開設や、葉山の選りすぐりの野菜が出品、販売される農産物品評会の開催など、町民や消費者に葉山の農産物の魅力を伝える取り組みを推進し、農業の振興を図っていきます。

また、今後増加が見込まれる休耕地は、営農意欲の高い担い手への集約等、活用方法の研究を進めていきます。

単位施策	30 - 02	つくり育てる漁業の振興
------	---------	-------------

「葉山町真名瀬漁港維持運営計画」に基づき、町管理の真名瀬漁港の適切な維持管理に努めていきます。

資源の増殖を図るため、漁業協同組合に対し、漁場の育成、稚魚・稚貝の放流などを支援していきます。

単位施策	30 - 03	魅力ある商工業の振興
------	---------	------------

県や国の施策を活用し、商工会等と連携して、情報発信や商店街の活性化、起業・新分野開拓などにつながる取り組みを支援していきます。

単位施策	30 - 04	6次産業化の推進
------	---------	----------

葉山ブランドの育成強化を図るとともに、地域の産品の販売拠点として、南郷地区における商業施設の建設・運営や朝市の支援などを進め、6次産業化を推進していきます。

協働でできること

- 町は、6次産業化に向け、農業協同組合、漁業協同組合、商工会をはじめ、町内の各種団体・事業所との協働による研究開発、イベント・販売促進活動の展開、販売環境づくりを進めていきます。

* 29 事業所数とは、経済センサス及び商業統計に基づく町内の事業所数のこと。
 * 30 売上高とは、経済センサス及び商業統計に基づく町内事業所の年間売上高の合計のこと。
 * 31 6次産業とは、農林漁業者が主体となって、生産から加工・販売まで取り組むこと。

地域の魅力が住んでいる人や訪れる人を惹きつけているまち

施策分野⑱ 観光振興

[将来像] 葉山の魅力が十分に発信され、ゆったりとした時間が流れるような観光スタイルが整っている

基本施策31 観光の振興

基本施策がめざす姿

- 恵まれた自然と一体となった様々な町民の営みが地域の魅力となり、多くの人が葉山を訪れています。

まちづくり指標

指標名	現状値	めざそう値	備考
町内で行われるイベント* ³² の来場者数	平成25年度 99,226人	平成32年度 104,000人	

現状と課題

- 葉山町は首都圏の保養地として知られ、美しい海岸線や緑などの豊かな自然をはじめ、美術館やレストラン、町並みなどを楽しみに、観光客が訪れています。
- 町の観光の課題として、町並みや地域イベントなど、個々の地域資源をつなげた観光PRに加え、近隣市との広域的な連携、SNS*³³などの新しい情報発信ツールの導入などを検討していくとともに、観光施設や案内板などのさらなる充実を図っていくことが必要です。
- 一部のマナーが悪い観光客により、住宅地でのごみの投棄や、話し声などの騒音などが恒常的に苦情として寄せられるとともに、交通渋滞も課題となっており、こうした問題の解消が急がれています。

基本方針

- 町並み、地域イベントなど地域資源を連携・活用し、町民生活と共存した観光振興を図ります。

具体的な取り組み

単位施策	31 - 01	地域資源の魅力化・ネットワーク化
------	---------	------------------

葉山しおさい博物館など、公的観光施設の魅力向上に努めるとともに、町並みや広域集客店、博物館・美術館・資料館、地域イベントなどの観光資源を、徒歩・自転車などで楽しく回遊できるようなくみづくりを進めます。

単位施策	31 - 02	観光PRの推進
------	---------	---------

観光案内板や誘導サイン、観光マップ・パンフレット、ホームページ内観光情報などの充実を図るとともに、SNSなどの新しい情報発信ツールの活用を図っていきます。

ごみの投棄や騒音などの観光マナーの悪化について、看板やチラシの作成、ビーチクリーンなどの魅力を共に守る取り組みを積極的に発信していくことで啓発し、マナーアップを図ります。

協働でできること

- 町と町民が協働で地域イベントを継続開催し、地域活性化を図っていきます。
- 町は、公衆トイレ清掃協定の締結や案内板や駐車場、ハイキングコースなどを含めた観光インフラの整備、維持管理に、アダプトプログラム^{*34}やクラウドファンディング^{*35}などの手法を含む協働手法の導入を検討します。
- 町や町民は、観光PRやマナー啓発の場として、雑誌などマスメディアを積極的に活用します。

* 32 町内で行われるイベントとは、産業振興に係る町共催・後援イベントのうち、町民のみを対象としたものを除いたものこと。

* 33 SNSとは、Social Network Service(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の略。インターネット上での日記やメッセージなどを通じて友人や知人・共通の趣味を持つ人達との交流を目的としたサービスのこと。

* 34 アダプトプログラムとは、ボランティアとなる地域住民や企業が道路や公園、海岸など一定の公共の場所の定期的な清掃活動を行い、地元を大切に慈しんでいこうということから名づけられた制度のこと(再掲)。

* 35 クラウドファンディングとは、ある目的、志などのため不特定多数の人から資金を集める行為、またそのためのネットサービスのこと。

